

心理学の巨人たち (英語版)

米国デイヴィッドソン・フィルムズ社が誇るビデオ・シリーズ「心理学の巨人たち」は、心理学の分野で記念碑的な業績を残した学者たち(ジャン・ピアジェ、エリック・エリクソン、レフ・ヴィゴツキーなど)の業績を紹介したものです。すでにアメリカを中心に数十万人を越える大学生に視聴されています。

B・F・スキナーを取り上げた作品(1999年)は高く評価され、著名な賞も授与されました。続くジョン・デューイの巻(2001年)も栄えあるシネ・ゴールデン・イーグル賞受賞の榮譽に浴しました。シリーズ6作目となるバンデューラの巻(2003年)では、アメリカ心理学会会長を務め現在も活躍している「巨人」の研究理論に焦点をあてています。2004-2005年にはそれぞれモンテッソーリとエインズワースという幼児教育の分野で忘れてはならない二人の女性学者をとりあげました。そして、2011年1月にはシリーズ最新刊として、第10巻 ウィリアム・ジェイムズ「良き習慣形成」が新発売となりました。

全10巻 550,000円(本体価格) 各巻分売可 | 英語字幕表示機能付 | 英文スクリプト(CD-ROM)& 学習指導書付 | 注文番号: GLE-041

第1巻: ジャン・ピアジェ 発達心理学概説 PIAGET'S DEVELOPMENTAL THEORY: AN OVERVIEW

監修: デイヴィッド・エルカインド

教育学者に大きな影響を与えたピアジェのもとで学び、「急がされる子どもたち」(紀伊國屋書店2002年)や「ミスエデュケーション」の著者でもあるデイヴィッド・エルカインド博士がナレーションを務める。現存するピアジェの映像、エルカインド博士が年齢の異なる子供たちに行うインタビュー、ピアジェの発達心理学の概要が解りやすく説明されたビデオとなっている。1989年制作 25分

第2巻: エリック・H・エリクソン その生涯の業績 ERIK H. ERIKSON: A LIFE'S WORK

監修: マーガレット・ブレンマン-ギブソン(エリクソンの共同研究者)、ルーシー・マイケルズ

エリクソンは「人の生涯は8つの段階を踏む」と提唱したことで知られている。彼は長年にわたる観察研究により、人間のパーソナリティは、遺伝的要因、生まれ育った文化、その人物独自の経験が相互に作用して形成されるという学説を展開した。エリクソンの理論・研究とその生涯を探る。1991年制作 38分

第3巻: レフ・ヴィゴツキー 発達心理学入門 VYGOTSKY'S DEVELOPMENTAL THEORY: AN INTRODUCTION

監修: デボラ・J・レオング、エレナ・ボドロバ

構成主義的教育理論と実践に必須のヴィゴツキー理論。彼の生涯とその理論の中心となる四つの基本概念(子供の知識獲得 / 学習と発達 / ソーシャル・コンテキスト / 言葉が認知発達において果たす中心的役割)を、自らもロシアで教育を受けたエレナ・ボドロバが解りやすくコメントする。またデボラ・レオングがクラスルームでの事例を参考に解説する。1994年制作 28分

第4巻: B・F・スキナー スキナー再評価 B.F. SKINNER: A FRESH APPRAISAL

監修: マレー・シドモン(スキナーの共同研究者、行動分析学者)

フロイトを除くと、悪評も含めてB.F.スキナーほど論じられる心理学者はいないだろう。1950年代の米国で行動分析を中心に据えた心理学を提唱し、カール・ロジャーズと並び称されている彼の20冊もの著書のなかで彼が実際に述べたこと、独自に考案された用語などに新しい光を当てて、スキナーの理論を再評価する。1999年制作 40分

第5巻: ジョン・デューイ その生涯と業績 JOHN DEWEY: HIS LIFE AND WORK

監修: ラリー・ヒックマン

彼の哲学、芸術、政治まで多岐にわたる分野での活躍を詳細に紹介している。その業績や研究の課題は今の時代と深く関係している。例を挙げるならば、民族的価値観が多様化するなかでの民主主義の提唱、若者の地域社会参加を促進すること、視野を広げるためのアートの活用などだろう。米国マサチューセッツ州ロクスベリーにあるミッション・ヒル・スクールを主宰するデボラ・マイヤー、審美的読書体験を重んじる教育学者ルイーザ・ローゼンブラット、哲学者ラリー・ヒックマン(サザンイリノイ大学デューイ研究所所長)がコメントしている。2001年制作 40分

第6巻: アルバート・バンデューラ 社会的認知理論入門 BANDURA'S SOCIAL COGNITIVE THEORY: AN INTRODUCTION

監修: アルバート・バンデューラ(本人)

バンデューラ自らが脚本にも参加し、プライベートな映像も交え、バンデューラ自

身の説得力あるナレーションによるこの作品は、彼の多岐にわたる研究を学生に理解させる一助として非常に価値のあるものとなった。初期の人形を使った実験、社会的モデリング論、恐怖の研究、そして後期の自己効力感理論まで、彼の学説は社会心理学の分野で確固たる位置をしめている。「人間の向社会的な発達、心身の健康・運動能力と知性の発達、そして教育分野まで、彼の並はずれた洞察力をくみ取ることのできる価値ある作品。」- パリー・J・ジーママン博士による作品評 2003年制作 38分

第7巻: マリア・モンテッソーリ その生涯と遺産 MARIA MONTESSORI: HER LIFE AND LEGACY

監修: アネット・ヘインズ

子供たちが世界を理解する過程をじっくり観察し、子供に備わっているパワーを認識していた彼女は、クラスルームの環境や教師の役割を子供の年齢に応じて変えていくべきだと提唱した。彼女の教育方法を実践しているモンテッソーリの名を冠した公認の幼児・就学前児童のための学校、小学校、中学校におけるその教育方法が紹介され、教育とはどういふものかを学生がみずから考えるように構成されている。モンテッソーリ自身のドラマティックな人生も映像でみることができる。2004年制作 35分

第8巻: マリア・エインズワース 愛着行動と情愛の発達 MARY AINSWORTH: ATTACHMENT AND THE GROWTH OF LOVE

監修: ロバート・マービン

マリア・エインズワースの実験と観察は、幼児と親の関係性と幼児の感情発達を理解・研究するうえでの基礎となった。ジョン・ボウルビィとの緊密な共同研究により、マリアは子供のごく初期の感情経験が、一生を通じてその人物の人格形成にもたらす深い影響力について光を当てた。「ストレンジ・シチュエーション」実験で観察される愛着行動の発展と相違パターンを見る。有名なハーロウの霊長類研究を含めた映像資料も収録されている。2005年制作 38分

第9巻: ジョン・ボウルビィ 親と子の愛着行動理論 JOHN BOWLBY: ATTACHMENT THEORY ACROSS GENERATIONS

ジョン・ボウルビィ(1907-1989)は、マリア・エインズワースの長年にわたる共同研究者だった。この番組ではハワード・スティール博士が案内役を務める。配偶者、血縁者、そして友人たちとのあいだに生まれる良好で親密な関係は大人のメンタルヘルスにとっても重要なものである。ボウルビィの愛着行動理論は、人が幼少時に育んだ身の回りの人々との関係性が後に精神的な絆を築く際にどのような影響を与えるかに焦点を当てている。子供から大人へ成長するにつれて発達する性格形成とそれに伴う多くの側面も語られる。この第9巻は2005年に発売された先行作品「第8巻: マリア・エインズワース 愛着行動と情愛の発達」の姉妹編といえる。前作では幼児期の愛着行動の発展を主に取り上げていた。第9巻では、大人になって新しい人間関係を築くこと、親しい人との別離や死別を乗り越える際の問題を取り上げている。またボウルビィらによって開発された治療法や、神経科学の発展で可能になった新しい発見が語られる。2007年制作 39分

第10巻: ウィリアム・ジェイムズ 良き習慣形成 WILLIAM JAMES: THE PSYCHOLOGY OF POSSIBILITY WITH JOHN J. MCDERMOTT

2010年に没後100年の記念シンポジウムが開催されたW. ジェイムズ(1842-1910)の生涯を、おもに心理学の分野における功績を中心に詳述する。ジェイムズは、ヨーロッパの精神分析の潮流にも関心を寄せ、フロイト、ユング等と早くから接触を採っている。ジョン・J・マクダーモット(テキサスA&M 大学哲学教授)解説。2011年1月制作 40分。

世界のマルチメディア資料 (DVD/CD-ROM/AUDIO 等) をお届けする

株式会社 日本外語協会

www.gaigo.co.jp info@gaigo.co.jp 03-5646-5324

(価格改定 2022-07-01)